



教育学部

准教授 河野 順子さん (国語教育)

Kawano Junko

●プロフィール

- 1980年 北九州市公立小学校に赴任
- 1991年 現職派遣として兵庫教育大学大学院学校教育研究科へ
- 1993年 同修士課程修了
- 1995年 広島大学付属小学校文部教官
- 2000年 兵庫教育大学大学院博士課程入学
- 2001年 兵庫教育大に籍を置き、広島大学大学院教育学研究科に特別研究生として編入。
- 2003年 博士号取得
- 2004年 熊本大学教育学部助教授

実践と理論のフュージョン

生まれ育った福岡の地で国語科教育を学んだ後、小学校の教師になった河野さん。二校目に赴任した小学校がいわゆる教育困難校でした。いじめ問題ばかりでなく、学力はあるが人とうまく関わることが出来ない子どもたちを前にして、「この子どもたちを育ててあげられない」と感じ、教育の在り方と非力さの壁にぶつかります。そして、「理論を学ばなくては」と、決心をします。

公立小学校教員という立場のまま、現職派遣という形で、兵庫教育大学大学院に進みますが、ここで出会った中冽正堯（なかすまさたか）先生の実践は大きいものでした。教育において「実践と理論をどう統合させていくか」という今日の問題に、以後、ずっと関わり続けることになります。

子どもの言葉の力を育てる

『＜対話＞による説明的文章の学習指導—メタ認知の内面化の理論提案を中心に—』は、2005年度に日本学術振興会からの出版助成を受け、博士論文を公刊したものだそうですが、河野さんの研究のあり方は一貫しています。実践（教育）現場に自ら出向き、「実践から学びながら理論を塗り替えていく」という姿勢です。そして、論理的思考力や批評力を育成する授業のあり方を臨牀的に明らかにしています。

未来を担う子どもたちの言葉の力を育てることを使命と感じ、現場に生かせる理論を構築していくためにも、「常に現場教育に参与し続ける研究者であるように」という姿勢で研究を続けていらっしゃる河野さん。幼小中高等学校現場で授業研究会講師を務め、国語教育研究会での講演など、市と県を含めた地域との連携を図っていくことにも力を注いでいます。2004年に熊本大学教育学部にいらしてからは、20名ほどの小・中学校の先生方と共に「国語教育湧水の会」の月例会を開いて学び合っていますが、これには熊本大学の学生も参加し学んでいます。

学生とともに育つ

「私、単身赴任なんです。もう毎日、夫と長距離電話してます」という河野さん。夫とは専門が同じだということで、毎日の会話が河野さんのリラックス法であり、元気のもとにもなっているようです。「教育はとても魅力的な世界です」と、河野さん。子どもたちの未来を育てる重要な仕事であることはもちろんですが、「与えるばかりではなく、関わり合うことの出来た子どもたちと共に自分も成長出来るところがこの世界の一番の魅力」とおっしゃいます。

熊本大学の授業では専門の「学習指導理論」を通して、「論理的思考の育成」を目指し、一方では、＜対話＞概念を用いた学び論及び対話型スピーチを授業に導入しています。そこで「内なる言葉」「私の言葉」を発見していく学生たち。「人と共同して新しい言葉を作り出していく」こと、言葉によって心を通わせ合う喜びと感動を、学生たちと分かち合う日々です。



研究室で

実践に学び、
国語教育理論を塗りかえていく。